

総合歯科学4

Overview in Dentistry4

1 単位 6 年 (後期)
基礎系教員

【授業目的】基礎歯科医学で学習したことを臨床歯学の基礎として統合し、臨床現場の諸問題を解決する応用力を育成する。

【授業概要】生体、とくに顎顔面領域の構造とその機能の知識を統合し、各種病態における対処法を整理する。また、生体材料の特徴を理解し、疾患に応じた組織再建の方法について考察できる能力を育成する。

【授業形式】講義

【授業方法】講義

【授業場所】月曜 6 時限、水曜 6 時限、金曜 6 時限 示説室

【授業テーマ】[授業テーマ]

【キーワード】[キーワード]

【先行科目】[先行科目]

【関連科目】[関連科目]

【履修上の注意】試験は学生便覧の歯学部規則を満たしている者に対して行う。

【到達目標】[目標]

【授業計画】

	大項目	内容	担当
1~2.	歯科理工学	材料の組成・物性、材料の用途別種類と性質、材料の取扱い技術、歯科用機械・器具	上記担当教員
3~4.	解剖学	頭頸部の骨・筋・脈管・神経、腺組織 口腔領域の発生、加齢	”
5~6.	口腔解剖学 口腔組織学	軟骨と骨、歯、歯周組織、唾液腺、頭頸部、顎と顎関節、発生、加齢	”
7~8.	生理学 口腔生理学	顔面の体性感覚、味覚、顎運動、咀嚼、嚥下、嘔吐、唾液、発生、加齢変化、ストレス	”
9~10.	生化学・口腔生化学	歯と歯周組織(核酸、タンパク質)、石灰化機構、骨・軟骨、カルシウム代謝、唾液・唾液腺、歯面への付着物、代謝とその相関	”
11~12.	病理学 口腔病理学	歯・口腔・顎・顔面疾患の病因・病態	”
13~14.	細菌学 口腔細菌学	微生物、免疫、口腔微生物	”
15~16.	薬理学 歯科薬理学	薬物療法の目的と分類、薬物の管理、用量、薬理作用の機序、薬物動態、投与方法、併用と相互作用、副作用、処方と処方箋、薬物適用上の注意	”

【成績評価】試験を行う。試験方法については、担当教員を交え教務委員会で協議決定する。

100 点満点で 60 点以上のものを合格とする。

【再試験】行う。

【教科書】[教科書]

【参考書】[参考資料]

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217359>

【連絡先】[連絡先]

【備考】試験を受けるためには授業時間の 3 分の 2 以上出席していなければならない。その他の要件としては、学生便覧の歯学部規則に従う。

Overview in Dentistry4

1 unit 6th-year(2nd semester)

基礎系教員

Target 基礎歯科医学で学習したことを臨床歯学の基礎として統合し、臨床現場の諸問題を解決する応用力を育成する。

Outline 生体、とくに顎顔面領域の構造とその機能の知識を統合し、各種病態における対処法を整理する。また、生体材料の特徴を理解し、疾患に応じた組織再建の方法について考察できる能力を育成する。

Style 〉 Lecture

Manner 〉 講義

Location 〉 月曜 6 時限、水曜 6 時限、金曜 6 時限 示説室

Theme 〉 [授業テーマ]

Keyword 〉 [キーワード]

Fundamental Lecture 〉 [先行科目]

Relational Lecture 〉 [関連科目]

Notice 〉 試験は学生便覧の歯学部規則を満たしている者に対して行う。

Goal 〉 [目標]

Schedule 〉

	大項目	内容	担当
1~2.	歯科理工学	材料の組成・物性, 材料の用途別種類と性質, 材料の取扱い技術, 歯科用機械・器具	上記担当教員
3~4.	解剖学	頭頸部の骨・筋・脈管・神経, 腺組織 口腔領域の発生, 加齢	”
5~6.	口腔解剖学 口腔組織学	軟骨と骨, 歯, 歯周組織, 唾液腺, 頭頸部, 顎と顎関節, 発生, 加齢	”
7~8.	生理学 口腔生理学	顔面の体性感覚, 味覚, 顎運動, 咀嚼, 嚥下, 嘔吐, 唾液, 発生, 加齢変化, ストレス	”
9~10.	生化学・口腔生化学	歯と歯周組織(核酸, タンパク質), 石灰化機構, 骨・軟骨, カルシウム代謝, 唾液・唾液腺, 歯面への付着物, 代謝とその相関	”
11~12.	病理学 口腔病理学	歯・口腔・顎・顔面疾患の病因・病態	”
13~14.	細菌学 口腔細菌学	微生物, 免疫, 口腔微生物	”
15~16.	薬理学 歯科薬理学	薬物療法の目的と分類, 薬物の管理, 用量, 薬理作用の機序, 薬物動態, 投与方法, 併用と相互作用, 副作用, 処方と処方箋, 薬物適用上の注意	”

Evaluation Criteria 〉 試験を行う。試験方法については、担当教員を交え教務委員会で協議決定する。

100 点満点で 60 点以上のものを合格とする。

Re-evaluation 〉 行う。

Textbook 〉 [教科書]

Reference 〉 [参考資料]

Contents 〉 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217359>

Contact 〉 [連絡先]

Note 〉 試験を受けるためには授業時間の 3 分の 2 以上出席していなければならない。その他の要件としては、学生便覧の歯学部規則に従う。